

目次

京都文化学研究基礎論 A	…1	京都文化特論演習 II	
京都文化学研究基礎論 B	…3	石川 登志雄	…53
歴史地理学特殊講義 A	…5	出田 和久	…54
王朝文学論特殊講義 A	…7	小林 一彦	…55
伝統産業論特殊講義 A	…9	下出 祐太郎	…56
古代史特殊講義 A	…11	吉野 秋二	…57
近世史特殊講義 A	…13	若松 正志	…58
近現代史特殊講義 A	…15	京都文化特論演習 III	
民俗文化論特殊講義 A	…17	石川 登志雄	…59
文化財論特殊講義 A	…19	出田 和久	…60
伝統芸能論特殊講義 A	…21	小林 一彦	…62
歴史考古学特殊講義 A	…23	下出 祐太郎	…63
歴史地理学特殊講義 B	…25	吉野 秋二	…64
王朝文学論特殊講義 B	…27	若松 正志	…65
伝統産業論特殊講義 B	…29	京都文化特論演習 IV	
古代史特殊講義 B	…31	石川 登志雄	…66
近世史特殊講義 B	…33	出田 和久	…67
近現代史特殊講義 B	…35	小林 一彦	…68
民俗文化論特殊講義 B	…37	下出 祐太郎	…69
文化財論特殊講義 B	…39	吉野 秋二	…70
伝統芸能論特殊講義 B	…41	若松 正志	…71
歴史考古学特殊講義 B	…43		
京都文化特論演習 I			
石川 登志雄	…45		
出田 和久	…47		
小林 一彦	…49		
下出 祐太郎	…50		
吉野 秋二	…51		
若松 正志	…52		

科目名	京都文化学研究基礎論A
担当者	出田 和久, 小林 一彦, 灘本 昌久, 吉野 秋二, 若松 正志
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期・秋学期
授業目標	京都文化学の基礎的事項に関する知識を教授するとともに, さまざまな研究課題や研究方法を提示し, 自ら研究を進めるための基本を身に付けるさせることを目的とする。
授業内容・方法	特に文献学的手法をとる研究分野, 具体的には, 歴史, 地理, 文学を中心に, 各担当教員が, 自身が専門とする分野について, 研究方法も含め講義する。プリントなどを配布し, 一部動画も活用する。その際, 1) 京都文化学および関連諸学の研究対象とその特徴, 2) 研究テーマの学問的・社会的背景, 3) 京都文化学研究の意義と社会的使命などにも留意する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 文献学の基礎と応用をしっかりと身につけてもらう。文献学研究の基本は第一次資料を吟味し, 資料批判を行いつつ, 有効に活用することである。そのためには, 古文献・古典籍についての書誌学の知識, および資料の扱い方を知ることが大切である。テキスト・クリティックについても, 日本の代表的な古典文学作品を扱いながら, 具体的にその方法論と重要性について明らかにする。専門分野を異にする受講生に対しても, 身に付けておくべき有効な研究方法を, 基礎からわかりやすく講義する。(小林 一彦)</p> <p>課題 : 文献学的テキスト研究の基本文献である『古典の批判的処置に関する研究 (全三巻)』(池田亀鑑著, 岩波書店, 1941)を読み, テキスト原典復原の試みについて追尋し, 研究をすすめる上で拠るべき資料(史料)の本文をどのように把握すべきか, レポートに自らの考えをまとめ報告する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 5月上旬, 11月上旬</p> <p>第2回 内容 : 歴史的地域である京都に関する研究方法の基礎を歴史地理学の視点から教授する。まず, 歴史地理学の研究方法に関して研究資料である古地図や古絵図, 地籍図, 文献史料等の活用について理解を深め, その後歴史地理学における景観変遷史の考え方について概説する。そのうえで, 平安京が内裏の位置や京城の選地との関わりで京都盆地北部に立地する自然的基礎について, その地理学的意義を明らかにした後, 平安京の景観変遷との関わりについて, 特に水との関連の重要性について考察する。(出田 和久)</p> <p>課題 : 受講者は, 講義をふまえ, 京都の歴史地理に関するテーマを設定し, 調査・研究したレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 5月下旬, 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : 京都の古代・中世の歴史を概説する。文化史を中心に, 政治史・経済史も総合する形で進める。文献史学分野の研究手法の教授を中心とするが, 考古学・美術史学・人文地理学・国</p>

語国文学などとの学際的研究についても考察する。木簡・墨書土器など新出資料による最新の研究成果にも言及する。さらに、京都の歴史を学ぶ意義を、観光など現代的側面も含め総合的に考察する。(吉野 秋二)

課題 : 受講者は、講義をふまえ、古代・中世の京都に関するテーマを設定し、調査・研究したレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 6月中旬, 12月中旬

第4回 内容 : 京都の近世の歴史を概説する。近世の京都は、注目されることが少ないが、政治(江戸幕府、朝廷)、経済(産業・商業・都市)、文化(宗教・芸術・出版)など、色々な面において重要であり、様々な資料をもとに多様な研究蓄積がある。授業では、研究手法にもふれながら、これらの点について具体的かつ総合的に考察し、京都の歴史における近世の重要性、近世日本における京都の重要性を明らかにする。(若松 正志)

課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世の京都に関するテーマを設定し、調査・研究したレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 7月上旬, 1月上旬

第5回 内容 : 京都の近現代の歴史を概説する。京都は、伝統の息づく街であると同時に、政治や文化などあらゆる面で新しいものが芽吹く街でもある。「番組小学校」の設立に見られるように、京都は明治の近代化で先進的役割を果たした。この授業では、そうした伝統と革新の織りなす京都の近現代史の研究成果を考察すると同時に、そうした研究を支える資料群について考察する。「部落学校」が設立されるなど、明治の近代化で先進的役割を果たした。本科目では、そうした伝統と革新の織りなす京都の近現代史の研究成果を考察すると同時に、そうした研究を支える資料群について考察する。(灘本 昌久)

課題 : 受講者は、講義をふまえ、近現代の京都に関するテーマを設定し、調査・研究したレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 7月下旬, 1月下旬

スクリーニング : なし

評価方法・基準 : レポート (20%×5回)

教材など : プリントなど配付。一部、動画を使うことがある。

IT使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	京都文化学研究基礎論B		
担当者	石川 登志雄, 下出 祐太郎, 鈴木 久男, 村上 忠喜, PELLECCIA Diego		
配当年次	1年		
週時間数	2		
単位数	2		
開講期間	春学期・秋学期		
授業目標	京都が長年の歴史の中で培ってきた伝統の諸分野を教授し、実学としてのその基本を理解させる。同時に、将来、国や自治体の文化政策を担うための基本を学ぶことも目的とする。		
授業内容・方法	伝統文化、伝統産業、伝統芸能、文化財、考古学等まで多岐に及ぶ。5名によるテーマを設定し、研究手法も含め講義する。なお、京都の伝統を未来に生かすための文化創造型の実学的な学びもとり入れて総合的に考察する。また教材として、動画や映像を活用する。		
授業計画	第1回	内 容	伝統産業の成り立ちについて、都としての歴史的、文化的背景から概説する。(下出 祐太郎)
		課 題	講義内容を踏まえて、伝統産業の歴史的変遷について概略せよ。観点として、講義で紹介した工芸の一つを取り上げ、現代まで続いてきた意義についても触れること。
		留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
		枚 数	A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)
		提出期限	5月上旬, 11月上旬
	第2回	内 容	京都に所在する多彩な日本庭園は、どのような思い(方針)のもとに保存されてきたかを個別具体的に学習する(所有者・行政・技術者(庭師)の取り組み)。加えて、近年における庭園の保存・修復整備・活動を考える。(鈴木 久男)
		課 題	講義で取りあげた庭園の現状を個別具体的に観察し、その庭園が内包している本質的価値が正しく保存活用されているかどうかを検討する。
		留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
		枚 数	A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)
		提出期限	5月下旬, 11月下旬
	第3回	内 容	「世界遺産としての古都京都の文化財」のテーマで、京都の文化財の特質、「古都京都の文化財」という概念の歴史的形成の過程やその意義、世界遺産としての京都の文化財の諸問題などについて講義を行う。(石川 登志雄)
		課 題	受講者は講義をふまえて、京都以外に古都と称される日本の都市を選び、その都市の古都としての文化財の歴史的形成過程やその意義、及び現代的諸問題の2つのテーマについての考察をレポートする。
		留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
		枚 数	A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)
		提出期限	6月中旬, 12月中旬
	第4回	内 容	研究手法や研究動向にもふれながら、京都の民俗について、代表的な事例を取り上げ、概説し、その特色や意味について考える。資料としては古写真等の映像資料を素材とする。(村上 忠喜)

課題 : 京都の民俗文化の特質を理解するとともに、そのなかからひとつテーマを抽出し、レポートにまとめる。具体的には、古写真を資料として、そこから描き出せる民俗文化について考察させる。

京都市文化市民局文化財保護課編『一枚の写真－近代京都庶民生活写真引き－』（京都市文化市民局文化財保護課，1999），京都映像資料研究会編『古写真で語る京都－映像資料の可能性－』（淡交社，2004）

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）

提出期限 : 7月上旬，1月上旬

第5回 内容 : 芸能を概説し伝統芸能における基本知識・理論を紹介する。様々なジャンル（例：念仏狂言，能楽，京舞）の基本と特徴を紹介し，伝統工芸，観光産業など，関連分野との関係性に対する理解を深める。（PELLECCHIA Diego）

課題 : 受講者は講義と教材を踏まえ，事例として芸能を共通する要素（例：舞踊，歌い，衣装，舞台）を取り上げ，比較研究を行う。結果をまとめてレポート形式で提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）

提出期限 : 7月下旬，1月下旬

スクリーニング : なし

評価方法・基準 : レポート（20%×5）

教材など : プリントなど配付

IT使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し，メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	歴史地理学特殊講義A
担当者	出田 和久
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	歴史地理学における歴史的都市研究の成果を基礎知識として獲得し、歴史地理学の視点・研究手法を身につけ、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	以下の通り、古代・中世京都研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 日本における古代都市の成立について歴史地理学の視点から考える。いわゆる飛鳥京から条坊都市藤原京の成立過程について、律令国家への動向とも関連づけて都市を必要とした政治的背景にも注目しながら、飛鳥京以前の諸宮の立地(自然,特に地形条件,陸上だけではなく水運も含めた交通環境)と藤原京の立地との相違等を検討する。</p> <p>課 題 : 条坊都市藤原京の立地環境について,地形条件をはじめ交通環境等を視野に入れ,いわゆる飛鳥京と比較しつつまとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポートの提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 条坊都市の展開を考える。条坊都市の形態とプラン(条坊道路の規模と条坊街区との関連)について,藤原京,平城京,平安京を対象として,先行研究(日本古代史や考古学の研究も含める)に依りながらその変遷について調査・研究し批判的にまとめる。このことを通じて歴史地理学研究の視点・方法を身につけるとともに,文献や資料探索についても工夫し,研究する態度を身につける。</p> <p>課 題 : 条坊都市の形態とプランに関して,特に街区に注目しつつ藤原京,平城京,平安京を比較しつつそれぞれの特徴についてまとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 武家社会への胎動のなかで平安京の内部の諸機能配置(特に貴族の邸宅や寺院の立地,里内裏の位置などを中心に)がどのように変化し,条坊道路,条坊内街区の地割がどのような変化を遂げて,平安京が中世都市化へと変容していったかについて調べる(目的に即した調査方法や資料を考える)。</p> <p>課 題 : 平安京の条坊道路や街区内部の変化について,具体的事例を通じて変化の方向と背景について考察したレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p>

第4回 内 容 : 中世都市京都の景観的変容を歴史地理研究にとって有用な絵図や古地図を活用して、具体的に新たな通りがどのあたりで多く開通しているか、変化が大きい地域がどのあたりであるかなどを明らかにし、その要因について調べる。また町の範域と通りとの関係やその変化についても調べ、通りの性格の変化を理解する(絵図の活用と分析・利用の仕方を身に付ける)。

課 題 : 絵図や古地図を資料として平安京域内の1地区をとりあげて「道」の新設による変化とその背景等について考察したレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)

提出期限 : 8月上旬

スクーリング : なし

評価方法・基準 : レポート(25%×4)

教材など : 必須

歴史地理学分野の古代・中世京都研究に関するプリントを配付し、テキストとする。

参考

①高橋康夫『京都中世都市史研究』(思文閣出版,1983)

②出田和久「飛鳥から藤原京へ一宮から京への展開」, 館野和己編『日本古代のみやこを探る』(勉誠出版,2015)

※①②は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。なお参考文献は、他にも指示する場合があります。

IT使用など : なし

備 考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	： 王朝文学論特殊講義A
担当者	： 小林 一彦
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 春学期
授業目標	： 平安京を舞台とする京都の古典文学を研究するために必要な，基礎知識・視点・研究手法を獲得し，成果をまとめられるようになる。
授業内容・方法	： 以下の通り，日本の古典文学の根幹をなす勅撰和歌集の中から，王朝の古典和歌の流れをたどることができ，同時に王朝の古典作品の作者たちも網羅する『新古今和歌集』を素材に，文学作品を正しく解釈する読み込みの訓練や，一首一首の出典考証，また本文校訂作業，さらに注釈史などの研究史にも目配りを怠らず，古典文学研究の基礎的な手法を修得する。
授業計画	： 第1回 内 容 : 平安～鎌倉時代前期の古典文学について，王朝の歌人(作家)を切り口として理解を深める(作家研究の基本，辞書を調べる，先行研究を調べる，資料をさがす，資料を読む，研究をまとめる)。
	課 題 : 『新古今和歌集』に作品を残す歌人(作家)について一人を選び，辞典類や先行論文に加えて，信頼できる一次資料を精査し，歌人(作家)の伝記についてレポートにまとめる。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 5月上旬
	第2回 内 容 : 平安～鎌倉時代前期の古典文学について，残された和歌作品を対象に理解を深める(作品研究の基本，当時の用例や辞書でことばを調べる，先行論文を読む，古注・新注を吟味する，資料をさがす，研究をまとめる)。
	課 題 : 第1回で取り上げた歌人(作家)の和歌作品を『新古今和歌集』から何首か取り上げ，先行研究や注釈を批判しつつ，解釈をまとめる。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 6月上旬
	第3回 内 容 : 平安～鎌倉時代前期の古典文学について，残された和歌作品を対象に読み込みの作業をすすめる，理解を深める(作品研究の基本，当時の用例や辞書でことばを調べる，先行論文を読む，古注・新注を吟味する，資料をさがす，研究をまとめる)。
	課 題 : 第2回で取り上げた歌人(作家)の和歌作品を，引き続き『新古今和歌集』から何首か取り上げ，先行研究や注釈を批判しつつ，さらに読み込みの作業を深め，解釈をまとめる。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 7月上旬
	第4回 内 容 : 日本古典文学のテキストについて考えを深める(テキスト・クリティックの意義と方法，古典籍についての基礎的な知識の修得，影印資料の見方，くずし字の読み方，関連資料の調べ方)。

課 題	第2回および第3回で取り上げた作品について、影印資料をもとに一首一首ごとの本文を定める。校勘作業、テキスト・クリティックの工程を、そのままレポートに作成する。
留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚 数	A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
提出期限	8月上旬
スクーリング	なし
評価方法・基準	レポート (25%×4)
教材など	<p>必須</p> <p>①『和歌ライブラリー』（日本文学WEB図書館，古典ライブラリー，2013～） 参考</p> <p>②山口博『王朝歌壇の研究』全4冊（桜楓社，1967～93）</p> <p>③井上宗雄『平安後期歌人伝の研究（増補版）』（笠間書院，1988）</p> <p>④人間文化研究機構国文学研究資料館編『和書のさまざま（CD-ROM付）』（和泉書院，2015）</p> <p>⑤小林一彦「著者自筆原本の復元—『土左日記』の場合」（人間文化研究機構国文学研究資料館編『古典籍研究ガイダンス 王朝文学をよむために』（笠間書院，2012）</p> <p>⑥小林一彦「善本とは何か—『明日香井和歌集』の場合」（中世文学と隣接諸学6『中世詩歌の本質と連関』竹林舎，2012）</p> <p>⑦冷泉家時雨亭文庫編『翻刻明月記』（朝日新聞社，2012～2018）</p> <p>⑧冷泉家時雨亭文庫編集委員会編『冷泉家時雨亭叢書』全100巻（朝日新聞社，1992～2017）</p> <p>⑨新古今集古注集成の会『新古今集古注集成』全9巻（笠間書院，1997～2014）</p> <p>⑩折口信夫全集ノート編補遺第5巻『新古今和歌集』（中央公論新社）</p> <p>⑪久保田淳『新古今和歌集全注釈』全6巻（角川学芸出版，2011～12）</p> <p>※①は本学図書館HPよりアクセス可能。②～⑪は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。なお参考文献は，他にも指示する場合がある。</p>
IT使用など	なし
備 考	Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し，メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	: 伝統産業論特殊講義A
担当者	: 下出 祐太郎
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 京都におけるものづくりの成り立ちを理解し、現代に繋がる文化を研究するために必要な、基礎知識・視点・研究手法を理解することができるようになること。
授業内容・方法	: 以下の通り、ものづくりについての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 有史の時代までの人々の営みの中で生み出されてきたものと、ものづくりの成り立ちについて考える。</p> <p>課 題 : 出土品が伝えるものから失われた文化を推察し、語れるもの(伝えるもの)と、語れないもの(伝えられないもの)についてレポートする(遺跡からの出土品を調べる、資料をさがす、考えをまとめる)。</p> <p>留意事項 : ※レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 国家の形成に必要なだったものづくりとは何か。728年に設置された内匠寮(たくみのりょう)について、考察する。</p> <p>課 題 : 内匠寮に置かれたそれぞれの専門職から、国家の形成に必要なものづくりとは何だったかをレポートする(先行研究を調べる、資料をさがす、研究をまとめる)。</p> <p>留意事項 : ※レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 現代に定着しつつある琳派の概念を調べ、現代に繋がるものづくりの流れを理解する。</p> <p>課 題 : 琳派概念を考察し、京都のものづくりについてレポートする(琳派に関する資料をさがす、関連資料の調べ方)。</p> <p>留意事項 : ※レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 近代産業に転換していくものづくりの流れを把握し、ものづくりの意味について考える。</p> <p>課 題 : 東京遷都による、京都のものづくりへの影響と、それが促す変化についてレポートする(近代産業の概要、資料を集める、分析、関連資料の調べ方)。</p> <p>留意事項 : ※レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚(2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : なし</p>
評価方法・基準	: レポート(25%×4)
教材など	必須 ①辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』(美術出版社, 1991初版) ②並木誠士『図解雑学 美術でたどる日本の歴史』(ナツメ社, 2002) ③奥平 俊六・玉蟲 敏子・並木 誠士・中部 義隆(著), 河野 元昭(監修)『年譜でたどる

琳派 400 年』(淡交社, 2015)

④並木誠士・青木美保子・清水愛子・山田由希代『京都の伝統工芸の近代』(思文閣出版, 2012)

※①～④は書店で購入可能。上記以外にも最新の研究資料などを随時示す。一部、動画を使うことがある。

ファイル使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 古代史特殊講義A
担当者	: 吉野 秋二
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 長岡京・平安京研究を中心に、日本古代史研究について、近年の動向も含め基礎的知識を獲得すること。先行研究を批判的に分析しながら、基本史料を読解し、研究を行う能力を修得すること。
授業内容・方法	: 以下の通り、長岡京・平安京研究を中心に日本古代史研究の現段階を学習する。
授業計画	: 第1回 内 容 : 日本古代史研究の全体的動向を、都市史を中心に把握する。主要テーマは、古墳時代の王宮と王陵、都城制の成立と展開、古代都城と寺社・宗教、古代の対外関係と東アジア、古代の都鄙間交通、権門体制の成立過程とする。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 7～11世紀を対象に、日本古代都市史の展開を、古代史全体の展開との関係に留意して、説明しなさい。その上で、今後、解決すべき課題は何か、自分自身の問題関心に即して、具体的に論じなさい。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 5月上旬
	第2回 内 容 : 長岡・平安遷都以前の山背地域に関して、調査・研究する(主要な先行研究を批判的に検討しつつ、基本史料を読解し、研究をまとめる)。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 長岡・平安遷都以前の山背地域史の展開を、適宜時代区分しながら、総合的に説明しなさい。その上で、この地域の歴史研究において、今後解決すべき課題は何か、自分自身の問題関心に即して、具体的に論じなさい。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 6月上旬
	第3回 内 容 : 長岡京・平安京に関して、都市史の観点から調査・研究する(主要な先行研究を批判的に検討しつつ、基本史料を読解し、研究をまとめる)。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 長岡京遷都から中世京都の成立に至る歴史の展開を、適宜時代区分しながら、総合的に説明しなさい。その上で、長岡京・平安京研究において解決すべき課題は何か、自分自身の問題関心に即して、具体的に論じなさい。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 7月上旬
	第4回 内 容 : 長岡京・平安京内および近隣地域の寺社に関して調査・研究する(主要な先行研究を批判的に検討しつつ、基本史料を読解し、研究をまとめる)。

課 題	受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 8世紀～11世紀後期を対象として、長岡京・平安京と近隣寺社との歴史的関係を総合的に説明しなさい。その上で、平安時代の寺社史研究・宗教史研究において解決すべき課題は何か、自分自身の問題関心に即して、具体的に論じなさい。
留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚 数	A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
提出期限	8月上旬
スクーリング	なし
評価方法・基準	レポート (25%×4)
教材など	必須 ①西山良平・鈴木久男編『古代の都3 恒久の都 平安京』（吉川弘文館，2010） ②吉川真司編『日本の時代史5 平安京』（吉川弘文館，2002） 参考 ③古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』（角川書店，1994） ④岸俊男『日本古代宮都の研究』（岩波書店，1988） ⑤西山良平『都市平安京』（京都大学学術出版会，2004） ⑥吉野秋二「神泉苑の誕生」（『史林』第88巻第6号，2005） ⑦吉野秋二「平安前期の広隆寺と周辺所領」（『古代文化』第64巻第3号，2012） ※①②は書店で購入可能。③～⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと（④⑤は書店での購入も可能）。⑥⑦は教員からコピーを配付。
IT使用など	なし
備 考	Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	: 近世史特殊講義A
担当者	: 若松 正志
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世の京都を研究するために必要な、基礎知識・視点・研究手法を獲得し、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	: 以下の通り、近世京都研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 日本近世史の研究動向について、都市史を中心に考える（日本近世史の研究動向。近世は都市の時代。三都（江戸・京都・大坂）と城下町、幕府の直轄都市（長崎）、近世都市を考えるための視点・方法・資料）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、日本近世都市史に関わるテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ、調査を行い、まとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内容 : 室町時代後期～江戸時代中期（16世紀中期～18世紀）の京都について考える（室町時代後期の京都、戦国時代の展開と天下統一、近世社会の成立と京都、近世の朝廷と幕府、近世京都の産業と文化）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、16世紀中期～18世紀の京都に関わるテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ、調査を行い、まとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内容 : 近世京都の人物について調査・研究する（人物研究の基本、辞書を調べる、先行研究を調べる、資料をさがす、資料を読む、研究をまとめる）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世京都の人物に関するテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ、調査を行い、まとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内容 : 京都の町触などの史料を読み、江戸時代の京都について考える（江戸時代の京都に関する資料の概要、漢文史料の読み方、京都の町触の読解・分析、関連資料の調べ方）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世京都の町触を中心的な素材とし、テーマを設定し、先行研究の動向もふくめ調査を行い、町触を資料として使ったレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p>

	スクーリング : なし
評価方法・基準 :	レポート (25%×4)
教材など :	<p>必須</p> <p>①若松正志「京都の経済・産業の歴史的展開について」(『京都産業大学日本文化研究所紀要』第6号, 2001)</p> <p>②若松正志「角倉了以・素庵の人物像—近世～近代に強調された側面—」(森洋久編『角倉一族の時代』思文閣出版, 2015)</p> <p>参考</p> <p>③『京都の歴史』全10巻(学藝書林, 1968～1976)</p> <p>④若松正志「貿易都市長崎における酒造統制令の展開—長崎町触を活用して—」(『京都産業大学論集』第25巻第4号<社会科学系列第12号>1995)</p> <p>⑤『京都町触集成』全13巻・別巻3巻(岩波書店, 1994～2017)</p> <p>※①②④は教員からコピーを配付。③⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。なお、授業計画に沿ってプリントを配付する。また、一部、動画を使うことがある。</p>
ファイル使用など :	なし
備考 :	Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 近現代史特殊講義A
担当者	: 灘本 昌久
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近現代（明治・大正期）における京都を研究するために必要な、基礎的知識・研究の手法を体得し、研究成果をまとめられるようになる。日本の文化の中心を担ってきた京都の全体像を学ぶと同時に、そうした京都の光の部分と同時に同和問題などの陰の部分も合わせて学習する。そこでは、近代化の中で、克服されるべき問題でありながら、解決に時間を要した差別問題にも触れる。
授業内容・方法	: 以下の通り、近現代京都（明治・大正期）の研究についての基礎を学習する。
授業計画	: 第1回 内 容 : 近現代京都（明治・大正期）の政治について学習する。京都は、明治維新の舞台になったと同時に、東京とは違った政治の道歩んだ。その変遷につき、史料に基づきながら概観する。
	課 題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における政治分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 5月上旬
第2回	内 容 : 近現代京都（明治・大正期）の経済について学習する。京都は、近代の富国強兵、殖産興業の先頭を走る地域であった。水力発電や様々な経済活動につき、その独自の道をたどる。
	課 題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における経済分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 6月上旬
第3回	内 容 : 近現代京都（明治・大正期）の社会について学習する。京都は、米騒動後の社会政策（公設市場、公設浴場、託児所など）、資本主義の発展に伴う様々な弊害につき、独自の対応を模索した。そうした、近代の歩について、学ぶ。
	課 題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における社会分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 7月上旬
第4回	内 容 : 近現代京都（明治・大正期）の文化について学習する。京都は、1200年の都としての歴史があり、その文化的に果たした役割は巨大である。また、首都が東京に移ってから、日本の文化の中心であり続けた。その歩について学ぶ。
	課 題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における文化分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も

含めたレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 8月上旬

スクーリング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4回)

教材など : 必須

①灘本昌久「明治期京都における被差別部落の義務教育について—府下4部落の事例を通して—」(『京都部落史研究所紀要』3号)

②灘本昌久「『差別語』といかに向きあうか」(『部落の過去・現在・そして…』所収, 阿吽社)

参考

③京都市史編さん所編『京都の歴史』(全10巻)

④京都市編『京都市政史』(全5巻)

⑤京都部落史研究所編『京都の部落史』(全10巻)

※①②は教員からコピーを配付。③～⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。

ファイル使用など : なし

備考 : インターネットでの文献検索, スカイプによる教員・院生間の討論を行う。

Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し, メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	民俗文化論特殊講義A
担当者	村上 忠喜
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	京都の年中行事を研究するために必要な基礎知識・視点・研究手法を、民俗学の研究動向のなかで獲得し、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	以下の通り、京都の年中行事についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 祇園祭山鉾風流の展開と定着, および現代的課題について多角的に考える。</p> <p>課 題 : A 祇園祭の山鉾風流は全国の山鉾屋台行事の中でどのように位置付けられるか。 B 現代においても相当数の関係者を取り込んで執行される都市祭礼の伝承力や現代社会のなかでの意義。 A・B どちらかについて、祇園祭の山鉾行事を素材に考察したレポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 京都の特徴的な剣鉾の祭礼について調査・研究する。実際に見聞してみることが望ましい。</p> <p>課 題 : 京都の祭礼の特徴のひとつでもある, 剣鉾が出る祭礼を素材にして、神社側ではなく町共同体が奉斎する祭祀母体の特徴、祭具と芸態の関係性、祭具の芸術性、神仏習合の残存、近隣農村との出入り関係による祭礼文化の伝承等々、祭礼文化を複眼的に見る眼を教材 (『京都・剣鉾のまつり調査報告書』) から学んだうえで、その中からテーマを一つチョイスしてレポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 京都の盆行事について考える。京都五山送り火、柱松行事など。</p> <p>課 題 : 京都の盆行事は、個人、(町) 共同体、そして町全体というそれぞれの規模で、多彩に繰り広げられる。民俗学の大きな成果である祖霊信仰が、京都という歴史的都市の盆行事において、どのように差別化されて展開したのかについてレポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 『日次紀事』など京都の地誌を読み、京都の年中行事について考える。</p> <p>課 題 : 江戸時代の京都の庶民生活について、黒川道裕著『日次紀事』に記された年中行事からテーマを抽出してレポートを提出する。</p>

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 8月上旬

スクリーニング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4)

教材など : 必須

- ①植木行宣・福原敏男著『山・鉾・屋台行事―祭りを飾る民俗造形』(岩田書院, 2016)
 - ②村上忠喜「ユネスコ無形文化遺産と民俗文化財―京都祇園祭の山鉾行事登録に向けての取り組み―」(立命館大学政策科学会『政策科学』17巻2号, 2010)
 - ③京都の民俗文化総合活性化プロジェクト実行委員会『京都・鉾のまつり調査報告書』(2014)平成30年度に京都市文化財保護課HPにてPDF公開
 - ④村上忠喜「託される民俗―京都五山送り火行事にみる都市―近郊の関係―」(佛教大学総合研究所『洛中周辺地域の歴史的変容に関する総合的研究』, 2013)
- 参考
- ⑤日次紀事研究会編『年中行事論叢―『日次紀事』からの出発―』(岩田書院, 2010)
- ※①⑤は書店で購入可能。②～④は教員からコピーを配付。なお一部、動画を使うことがある。

IT使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール (添付ファイル) で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 文化財論特殊講義A
担当者	: 石川 登志雄
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 建造物・美術品・芸能など今日に伝来する有形・無形の文化財は、絶え間ない受難と再興の歴史でもある。災害史・防災史の観点からふまえて文化財学研究の方法論を考察する。
授業内容・方法	: 以下の通り、京都の寺社を中心とした文化財学についての基礎を学習する。
第1回 内容	: 1153年に創建された平等院文化財及び阿弥陀堂（鳳凰堂）の古代から現代に至るまでの受難と再生について、戦争・地震・火災や政治的転換など災害史・政治社会史の観点から考察し、世界遺産としての平等院の文化財学的な意義をレポートする。
課題	: 受難と再興を繰り返した日本歴史上著名な京都の寺院を一つ取り上げ、その寺院の歴史と文化財について概略し文化財的意義をレポートする。
留意事項	: レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚数	: A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
提出期限	: 5月上旬
第2回 内容	: 1174年に創建された三十三間堂の建築及び仏像群の現代に至るまでの受難と再生の歴史について、戦争・地震・火災や政治的転換など災害史・政治社会史の観点から考察し、三十三間堂の文化財学的な意義を考察する。
課題	: 治承寿永内乱期における平家の南都焼討ちによる文化財の被害状況とその後の復興、及び現代における文化財修理の在り方について、文化史的観点から比較考察し、レポートする。
留意事項	: レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚数	: A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
提出期限	: 6月上旬
第3回 内容	: 明治維新によって京都の寺社の文化財はどのような影響を受け、どのような変革を辿ったか。廃仏毀釈、上知令とその反作用としての近代文化財保護制度の確立を考察する。
課題	: 明治維新时期に廃仏毀釈によって文化財の散逸の影響を受けた代表的な寺社を一つ取り上げ、その経過とその後について、文化史的意義をふまえてレポートする。
留意事項	: レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚数	: A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
提出期限	: 7月上旬
第4回 内容	: 1995年、阪神淡路大震災における文化財の被害とその救済（レスキュー）及び復興について、事例を紹介しながら、文化財保護・救済・復興に対する概念の変化を読み解き、これからの大規模災害における文化財保護の在り方を考察する。
課題	: 2011年、東日本大震災における文化財の被害とその救済（レスキュー）及び復興の経過と課題について事例をまとめて、「大規模災害とこれからの文化財保護の在り方」の観点からレポートする。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 8月上旬

スクリーニング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4)

教材など : 必須

①文化財保存修復学会編『災害から文化財をまもる』(クバプロ, 2012)

参考

②東京国立博物館ほか編『国宝 平等院展』(特別展図録) (朝日新聞社, 2000)

③『三十三間堂の佛たち』(妙法院門跡, 1997)

④辻善之助ほか『新編明治維新神仏分離史料』(名著出版, 1983)

⑤安丸良夫『神々の明治維新 神仏分離と廃仏毀釈』(岩波書店, 1979)

※①⑤は書店で購入可能。②～④は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。

IT使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し, メール (添付ファイル) で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 伝統芸能論特殊講義A
担当者	: PELLECCIA Diego
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本科目は現代の能楽を対象とし、能の実演分析を目的とする。マルチメディア芸術である能楽における動作（演技・舞踊）、音響、美術（装束・舞台構造・作物・小道具）などを含む実演の基本要素を紹介した上で、実演研究手法を検討する。資料の媒体により異なる研究の様々な切り口を探究すると共に、批判理論、人類学・エスノグラフィー、パフォーマンス・スタディーズなど、国際・学際的な観点から能の研究理論を紹介する。
授業内容・方法	: 以下の通り、能の実演分析についての基礎を学習する。
授業計画	: 第1回 内 容 : 曲目分類（五番立、夢幻能・現在能）と曲の構成（場・段・小段の構成）を概要する。
	課 題 : 受講者は講義と教材を踏まえ、事例として一曲を取り上げ、授業で紹介した分析方法を使用し分析する。結果をまとめてレポート形式で提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 5月上旬
第2回	内 容 : 演者の表現方法としての所作を研究する。「写实的型」と「抽象的型」の区別と絡め方の理解を深める。そして型のシーケンスとなる「仕舞」と「舞」を分析する。
	課 題 : 受講者は演能のビデオを観賞する。講義と教材を踏まえ、事例として一曲の一つの場面を取り上げ、所作の分析を行う。結果をまとめてレポート形式で提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 6月上旬
第3回	内 容 : 謡を概要する（謡とコトバ、弱吟・強吟、小段による謡の分類）。コトバと謡の使い分け方、謡の種類、人物の種類による謡型を学ぶ。
	課 題 : 受講者は演能のビデオを観賞する。講義と教材を踏まえ、事例として一曲の一つの場面を取り上げ、謡の分析を行う。結果をまとめてレポート形式で提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 7月上旬
第4回	内 容 : 能面を概要する（能面の分類と作り方、使い方）。能面の作り方を素材から出来上がるまで学ぶ。能面の種類と人物の扮装の組み合わせ方を調査し、舞台上で能面の扱い方と使い方を学ぶ。
	課 題 : 受講者は講義と教材を踏まえ、事例としていくつかの登場人物の扮装を取り上げ、能面の比較研究を行う。結果をまとめてレポート形式で提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）

	提出期限 : 8月上旬
	スクーリング : なし (なお, 演能の鑑賞は必要)
評価方法・基準	: レポート (25%×4)
教材など	: 必須 ①高橋雄一郎, 鈴木健 (編) 『パフォーマンス研究のキーワード: 批判的カルチュラル・スタディーズ入門』 (世界思想社, 2011) ②エリカ・フィッシャー＝リヒテ (著) 『演劇学へのいざない: 研究基礎』 (国書刊行会, 2013) ③世阿弥 (著), 竹本幹夫 (編) 『風姿花伝・三道』 (角川学芸出版, 2013) ④DVD 観世寿夫 [ほか] 『井筒』 (NHK エンタープライズ, 2006) 参考 ⑤横道萬里雄 (著) 『岩波講座 能・狂言』 「IV・能楽の構造と技法」 (岩波書店, 1992) ⑥著作権・肖像権の許可を取得した YouTube 動画 (例: 京都能楽囃子方同明会) ⑦デジタルコンテンツ: 立命館大学 ARC アートリサーチ・センター 能楽動画検索・鑑賞システム (一般公開) ※①～④は書店などで購入可能。⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。⑥⑦はインターネットで閲覧可能。 ※その他: 演能の鑑賞は必要 (演目は教員と相談した上で決定する)。
IT使用など	: なし
備考	: Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し, メール (添付ファイル) で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	歴史考古学特殊講義A
担当者	鈴木 久男
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	発掘庭園を研究するために必要な、基礎知識（調査報告書の読み解き）を獲得する。考古学から見た日本庭園の歴史をまとめられるようになること。
授業内容・方法	方法：発掘庭園に関する、最近の基礎情報を獲得するための学習を行う。
授業計画	<p>第1回 内 容： 発掘庭園の調査研究史を講読し、時代・地域・意匠・縄張りなどを考える。加えて、個別に庭園の本質的価値を抽出する。</p> <p>課 題： 発掘庭園の調査研究上の限界と優位性を個別具体的に考える。伝承されてきた庭園イメージと比較。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 5月上旬</p> <p>第2回 内 容： 発掘調査報告書の見方（内容理解）を具体的に行う。遺構平面図（実測図）から遺構規模・建物復元・遺構の高低差などを読み解く。</p> <p>課 題： 発掘庭園を個別に調査・研究し、その本質的価値を明らかにする。（教育委員会が刊行した調査報告1冊を取りあげ具体的に内容を調べまとめる）。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 6月上旬</p> <p>第3回 内 容： 平安京跡の庭園について考える（例、平安貴族の建物と庭園、院政期の寺院と庭園、鎌倉時代から室町時代の山荘庭園）。</p> <p>課 題： 大覚寺・鹿苑寺・慈照寺庭園など、伝承されてきた庭園の成立当初のイメージを復元的に考える。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 7月上旬</p> <p>第4回 内 容： 地方の有力貴族邸宅・寺院庭園について考える（平安時代から鎌倉時代）。加えて、地方の有力武士館や城郭の庭園についても考える（室町時代から江戸時代）。</p> <p>課 題： 整備復元された発掘庭園の紹介と自身の物の見方・考え方による本質的価値を自由に述べる。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 8月上旬</p> <p>スクーリング： なし</p>
評価方法・基準	レポート（25%×4）
教材など	<p>必須</p> <p>①調査報告書（調査組織がホームページなどにアップしたものを紹介する） 参考</p> <p>②ホームページなどにアップされた刊行物を用いる</p> <p>※①②はインターネットで閲覧可能。具体的な文献と入手先は、プリントを配付し指示する。</p>

ファイル使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール (添付ファイル) で提出。
提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	歴史地理学特殊講義B
担当者	出田 和久
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	歴史地理学における歴史的都市研究の成果を基礎知識として獲得し、歴史地理学の視点・研究手法を身につけ、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	以下の通り、中世後半・近世～現代の京都研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 応仁の乱以後の中世後半における京都の町の変容について、歴史地理学だけではなく都市史、日本史、考古学などの隣接領域の研究成果を整理し、中世後半の都市京都の変容についての理解を深める。また、辻子地名を手掛りとして具体的な街区構造の変化についていくつかの事例を調べる(文献検索を行い、適切な先行研究を読み、研究成果をまとめる)。</p> <p>課 題 : 辻子地名を手がかりに京都の町の中世後半における変容とその背景についてまとめたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 織田信長の二条城築城を嚆矢とする京都の城下町化について、豊臣秀吉による京都の改造がどのようなものであったかについて発掘調査成果を含めて具体的に明らかにする。聚楽第建設や大名屋敷の配置、天正地割の設定とその背景、御土居の構築とその後の変化について、多数残っている「京都図」関係の絵図や古地図を活用して明らかにするとともに現在の残存部分を調べる(発掘報告等の読み方を学び内容を適切に理解する。絵図の適切な活用と分析・利用の仕方を身につける)。</p> <p>課 題 : 豊臣秀吉による京都の近世城下町への改造について、特に御土居の構築に焦点を当てて近世の「京都図」を活用しつつまとめ、御土居が京都の近世都市化に果たした役割について考察したレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : 明治期における京都の近代化について、首都移転に伴う空洞化対策の意味も有した産業経済の大改革にともなう諸施設の立地や京都の近代化に大きな役割を果たした琵琶湖疎水の開削を中心にまとめる。また、御土居の跡地の利用について調べ、現在の京都市街地においてどのような役割を果たしているかを考える。</p> <p>課 題 : 琵琶湖疎水事業が京都の近代化に果たした役割を、京都の都市の変容と関連付けて考察したレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p>

第4回 内 容 : 歴史都市京都の都市遺産には多種多様なものがあり, 歴史的景観は其中で大きな位置を占める。過密社会の日本において土地利用の高度化が強調される中で京都の観光資源としての歴史的景観保全のあり方についてまとめる。

課 題 : 京都における歴史的景観保全に関わるテーマを設定して, それに関して調査・研究したレポートを提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚 数 : A4・2~4枚 (2,000~4,000字程度)

提出期限 : 1月下旬

スクーリング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4)

教材など : 必須

中世後半・近世~近現代を対象とする歴史地理学分野の京都研究に関するプリントを配付しテキストとする

参考

①足利健亮『中近世都市の歴史地理』(地人書房, 1984)

②西川幸治・保存修景研究会『歴史の町なみ 京都篇』(日本放送出版協会, 1979)

※①②は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。

ファイル使用など : なし

備 考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し, メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	： 王朝文学論特殊講義B
担当者	： 小林 一彦
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 秋学期
授業目標	： 古典文学を研究するために必要な、知識・視点・文献学的な実証による研究手法を獲得し、研究者として成果をまとめられる水準をめざす。
授業内容・方法	： 以下の通り、京都およびその周辺地域で活躍した作家とその作品を対象とし、作品形成の舞台となった平安京と作品との関係について、文献学的な手法を駆使して学習する。
授業計画	<p>第1回 内容： 平安～鎌倉時代前期の作家・文学者について、鴨長明と藤原定家を取り上げる。社会状況や家庭環境、出自などについて目配りを怠らず、複数の視点から対象にアプローチし、調査・研究する（人物研究の基本、辞書を調べる、先行研究を調べる、資料をさがす、資料を読む、研究をまとめる）。</p> <p>課題： 先行研究をふまえ一次資料にあたりながら、藤原定家もしくは鴨長明の伝記についてまとめる。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 10月下旬</p> <p>第2回 内容： 古典文学作品の多くは平安京を舞台として成立している。そうした作品を産み出した都市、平安京について研究動向に目配りしつつ学習する（文学における担い手と享受者の関係、京都の文化・文芸と地方、文学と政治・経済・宗教など各自の研究対象分野から課題を選択）。</p> <p>課題： 古記録・日記でもある藤原定家『明月記』と記録文学でもある『方丈記』のどちらかを選択。そこに描かれた平安京の姿を抽出し、関連古記録や作品と関連付けて、彼らが目にした社会や世界をレポートとしてまとめる。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 11月下旬</p> <p>第3回 内容： 王朝の古典文学における個人と集団、個性と社会心理・集団表彰について考え、学習する（古典テキスト資料の読み込み、一次資料の整理・分析・分類と活用、先行研究の検証と継承、関連資料の調べ方）。</p> <p>課題： 藤原定家の作品、また鴨長明の作品を具体的に取り上げ、作品を読み込みながら、そこに当時の平安京の風景や社会状況、人々の意識がどの程度反映されているか、考えをレポートにまとめる。</p> <p>留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数： A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限： 12月下旬</p> <p>第4回 内容： 日本の古典文学における個人と集団、個性と社会心理・集団表彰についてさらに考えを進め、深く考察する（古典テキスト資料の読み込み、一次資料の整理・分析・分類と活用、先行研究の検証と継承、関連資料の調べ方）。</p>

課 題	: これまでの1～3回のレポートを踏まえ、作家の産み出す文学作品は、出自や家系、また時代背景や社会状況とどのように関わるのか、具体的に例証をあげつつレポートにまとめる。
留意事項	: レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚 数	: A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
提出期限	: 1月下旬
スクーリング	: なし
評価方法・基準	: レポート (25%×4)
教材など	: 必須 ①『和歌ライブラリー』（日本文学WEB図書館、古典ライブラリー、2013～） ②小林一彦『鴨長明と寂蓮』（笠間書院、2012） 参考 ③古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』（角川書店、1994） ④後藤祥子『文学空間としての平安京』（勉誠社、1994） ⑤築瀬一雄『方丈記解釈大成』（大修館書店、1972） ⑥築瀬一雄『鴨長明研究』（加藤中道館、1980） ⑦三木紀人『鴨長明 閑居の人』（新典社、1984） ⑧大曾根章介・久保田淳編『鴨長明全集』（貴重本刊行会、2000） ⑨石田吉貞『藤原定家の研究』（文雅堂銀行研究社、1969） ⑩久保田淳『藤原定家 乱世に華あり』（集英社、1984） ⑪久保田淳『訳注 藤原定家全歌集』（河出書房新社、1985～6） ⑫久保田淳『藤原定家とその時代』（岩波書店、1994） ⑬明月記研究会『明月記研究 記録と文学』（山川出版社/続群書類従完成会/八木書店、1996～） ⑭冷泉家時雨亭文庫編集委員会編『冷泉家時雨亭叢書』全100巻（朝日新聞社、1992～2017） ⑮小林一彦「定家と長明」—『定家卿自歌合』の真偽に及ぶ（『芸文研究』69、1995） ※①は本学図書館HPよりアクセス可。②は書店で購入可能。③～⑭は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。⑮はインターネットで閲覧可能。なお参考文献は、他にも指示する場合がある。
IT使用など	: なし
備 考	: Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	: 伝統産業論特殊講義B
担当者	: 下出 祐太郎
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 機械産業が主となった現代において、手工業的産業が持つ意味とは何であるのかについて研究するために、必要な基礎知識・視点・研究手法を獲得し、研究成果をまとめることができるようになること。
授業内容・方法	: 以下の通り、手工業的産業が持つ意味についての研究の基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 近代産業の事例を一つ取り上げて、その概要と意味について理解する。</p> <p>課題 : 京都の企業である島津製作所、堀場製作所、村田機械、村田製作所、オムロン、任天堂、京セラなどの伝統産業を基盤とした近代産業を一つ取り上げ、京都の発展に寄与した意義をレポートする（資料の蒐集、分析、考察）。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内容 : 京都の花街における伝統的なものづくりを取り上げ、その概要と意味について理解する。</p> <p>課題 : 花街を支える手仕事のあり方を抽出し、手仕事を支える文化についてレポートする（資料の蒐集、分析、考察、研究をまとめる）。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : 現代和風のコンセプトで建築された京都迎賓館に収集された伝統工芸とその技能を概説する。現代に生きる伝統工芸産業の意味について理解する。</p> <p>課題 : 京都迎賓館に展開された現代和風を支える伝統工芸の意味を、具体例をもってレポートする（資料の蒐集、分析、考察、研究をまとめる）。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内容 : 京都の地域性が生み出した独自の方法論を抽出し、汎用に繋がるような方法論について考える。</p> <p>課題 : ベンチャー企業を生み出す風土は何なのかを、事例をもって論理的にレポートする（関連資料の読解・分析、考察）。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : なし</p>
評価方法・基準	: レポート（25%×4）
教材など	: 必須 ①財部誠一『京都企業の実力』（実業之日本社、2015）

-
- ②西尾 久美子『京都花街の経営学～350年の伝統に学ぶ経営の極意』(東洋経済新聞社, 2008)
③迎賓館京都事務所『京都迎賓館』(淡交社, 2006年初版)
※①～③は書店で購入可能。上記以外にも最新の研究資料などを随時示す。一部、動画を使うことがある。
-

ファイル使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 古代史特殊講義B
担当者	: 吉野 秋二
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 長岡京・平安京研究を中心に、日本古代史の実証研究の手法（文献史料・古文書・出土文字資料（木簡・墨書土器など）といった史料を分析し、研究を行う能力）を修得すること。
授業内容・方法	: 以下の通り、長岡京・平安京研究を中心に日本古代史研究の方法の基礎を学習する。
授業計画	: 第1回 内 容 : 長岡京・平安京研究の手法について、史料に即して、主要な実証研究を参照しつつ学習し、その成果をレポートにまとめる。取り上げる史料は、『延喜式』『類聚三代格』などの法制史料、六国史とする。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 長岡京・平安京に関する法制史料を分析し、小論文を作成しなさい。なお取り上げる史料は、配布プリントから選択し、引用の際には、必ず書き下し文・現代語訳を付記すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 10月下旬
	第2回 内 容 : 長岡京・平安京研究の手法について、史料に即して、主要な実証研究を参照しつつ学習し、その成果をレポートにまとめる。取り上げる史料は、古記録、文学史料とする。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 長岡京・平安京に関する古記録・文学史料を分析し、小論文を作成しなさい。なお取り上げる史料は、配布プリントから選択し、引用の際には、必ず書き下し文・現代語訳を付記すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 11月下旬
	第3回 内 容 : 長岡京・平安京研究の手法について、史料に即して、主要な実証研究を参照しつつ学習し、その成果をレポートにまとめる。取り上げる史料は、寺社に関する史料（古文書、寺院縁起など）とする。
	課 題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。 長岡京・平安京に関する寺社史料を分析し、小論文を作成しなさい。なお取り上げる史料は、配布プリントから選択し、引用の際には、必ず書き下し文・現代語訳を付記すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
	提出期限 : 12月下旬

第4回 内容 : 長岡京・平安京研究の手法について、史料に即して、主要な実証研究を参照しつつ学習し、その成果をレポートにまとめる。取り上げる史料は、出土文字資料（木簡、墨書土器など）とする。

課題 : 受講生は、以下の要領でレポートを執筆し、提出すること。長岡京跡・平安京跡から発掘された出土文字資料を分析し、小論文を作成しなさい。なお取り上げる史料は、配布プリントから選択し、引用の際には、必ず書き下し文・現代語訳を付記すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）

提出期限 : 1月下旬

スクリーニング : なし

評価方法・基準 : レポート（25%×4）

教材など : 必須

長岡京・平安京研究に関する主要史料を抜粋したプリントを配付し、テキストとする。
参考

①歴史学研究会編『日本史史料〈1〉古代』（岩波書店、2009）

②『史料 京都の歴史』全16巻（平凡社、1979～1994）

③長岡京市役所編『長岡京市史』資料編二（1992）

④木下正史・石上英一編『新版古代の日本10 古代資料研究の方法』（角川書店、1993）

⑤山中裕編『古記録と日記』上巻・下巻（思文閣出版、1992）

⑥吉野秋二「人給所」木簡・墨書土器考（吉野秋二『日本古代社会編成の研究』〈塙書房、2010、初出2002〉）

⑦吉野秋二「平安京跡左京九条三坊十町（施薬院御倉跡）出土の木簡」（『古代文化』第67巻第2号、2015）

※①～③は基本的史料集、④⑤は史料論全般に関わる基本文献で、参照が望ましい。

①～⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。⑥⑦は教員からコピーを配付。なお、一部、動画を使うことがある。

IT使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	: 近世史特殊講義B
担当者	: 若松 正志
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 近世京都の朝廷・寺社・観光などを研究するために必要な、基礎知識・視点・研究手法を獲得し、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	: 以下の通り、近世京都研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 近世の朝廷の概要について理解する（研究動向，織豊期の朝廷と武家，江戸時代の幕府と朝廷<時代的展開，朝廷の組織・制度>，朝廷と民衆）。朝廷に関する資料。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世の朝廷に関わるテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ調査を行い、資料を使ったレポートをまとめ、提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内容 : 近世朝廷の人物について調査・研究する（人物研究の基本，辞書を調べる，先行研究を調べる，資料をさがす，資料を読む，研究をまとめる）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世の朝廷の人物に関するテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ調査を行い、資料を使ったレポートをまとめ、提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : 近世京都の寺社について理解する（江戸時代の寺院・神社の概要，寺院・神社資料の概要，寺院・神社の調査・分析，関連資料の調べ方）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世京都の寺社に関するテーマを設定し、先行研究の動向もふくめ調査を行い、資料を使ったレポートをまとめ、提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内容 : 『都名所図会』など京都の地誌を読み、江戸時代の京都について考える（江戸時代の京都の地誌の概要，資料の読み方，くずし字の読み方，京都の地誌の読解・分析，関連資料の調べ方）。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、近世京都の地誌を中心的な素材とし、テーマを設定し、先行研究の動向もふくめ調査を行い、地誌を資料として使ったレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p>

提出期限 : 1月下旬

スクーリング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4)

教材など : 必須

①藤田覚『江戸時代の天皇』（講談社，2011）

②若松正志「典仁親王」（『歴史読本』819，2009）

③若松正志「角倉了以・素庵の人物像—近世～近代に強調された側面—」（森洋久編『角倉一族の時代』（思文閣出版，2015）

参考

④藤井讓治『天皇と天下人』（講談社，2011）

⑤『天皇皇族実録』第99巻～第135巻（ゆまに書房，2005～2006，東京大学史料編纂所データベース）

⑥『史料 京都の歴史』全16巻（平凡社，1979～1994）

⑦平安京都名所図会（国際日本文化研究センターのデータベース）

※①④は書店で購入可。②③は教員からコピーを配付。⑤⑦はインターネットで閲覧可能。

⑥は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。なお，授業計画に沿ってプリントを配付する。また，一部，動画を使うことがある。

マイク使用など : なし

備考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し，メール（添付ファイル）で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」（第×回課題レポート）」として下さい。

科目名	近現代史特殊講義B
担当者	灘本 昌久
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	近現代（昭和前期・後期）における京都を研究するために必要な、基礎的知識・研究の手法を体得し、研究成果をまとめられるようになる。日本の文化の中心を担ってきた京都の全体像を学ぶと同時に、そうした京都の光の部分と同時に同和問題などの陰の部分も合わせて学習する。そこでは、近代化の中で、克服されるべき問題でありながら、解決に時間を要した差別問題にも触れる。
授業内容・方法	以下の通り、近現代京都（昭和前期・後期）の研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 近現代京都（昭和前期・後期）の政治について学習する。京都は、明治維新の舞台になったと同時に、東京とは違った政治の道を歩んだ。その昭和期の変遷につき、史料に基づきながら概観する。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における政治分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内容 : 近現代京都（昭和前期・後期）の経済について学習する。京都は、近代の富国強兵、殖産興業の先頭を走る地域であった。昭和期の様々な経済活動につき、その独自の道をたどる。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における経済分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : 近現代京都（昭和前期・後期）の社会について学習する。京都は、米騒動後の社会政策（公設市場、公設浴場、託児所など）、資本主義の発展に伴う様々な弊害につき、独自の対応を模索した。そうした、近代の歩みについて、昭和期に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>課題 : 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における社会分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内容 : 近現代京都（昭和前期・後期）の文化について学習する。京都は、1200年の都とした歴史があり、その文化的に果たした役割は巨大である。また、首都が東京に移ってから、日本の文化の中心であり続けた。その歩みについて昭和期に焦点をあてて学ぶ。</p>

課 題	： 受講者は、講義をふまえ、京都の近現代史における文化分野でのテーマを設定し、調査・研究を行い、最近の研究動向も含めたレポートを提出すること。
留意事項	： レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚 数	： A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)
提出期限	： 1月下旬
スクーリング	： なし
評価方法・基準	： レポート (25%×4回)
教材など	<p>必須</p> <p>①灘本昌久「全国水平社解消論から部落委員会活動へー解消論克服のための二ステップー」『京都部落史研究所紀要』7号</p> <p>②灘本昌久「瀬川丑松、テキサスへ行かず (上) (下)」(こべる刊行会『こべる』40・41号)</p> <p>参考</p> <p>③京都市史編さん所編『京都の歴史』(全10巻)</p> <p>④京都市編『京都市政史』(全5巻)</p> <p>⑤京都部落史研究所編『京都の部落史』(全10巻)</p> <p>※①②は教員からコピーを配付。③～⑤は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと。</p>
IT使用など	： なし
備 考	<p>： インターネットでの文献検索、スカイプによる教員・院生間の討論を行う。</p> <p>Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール (添付ファイル) で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。</p>

科目名	民俗文化論特殊講義B
担当者	村上 忠喜
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	京都の庶民生活文化に関する研究。主として近代の京都人の市井人の記録等を利用して、民俗誌的現在の生活文化の復原を行う。京都の都市生活文化を研究するために必要な、基礎知識・視点・研究手法を獲得し、研究成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	以下の通り、京都の庶民生活文化研究についての基礎を学習する。
授業計画	<p>第1回 内容 : 京都の生活文化に関する概要について理解する。と同時に、研究のための素材の開発を行う。エッセイ、小説、新聞などの刊行物。映像記録、調査報告、その他の資料等。</p> <p>課題 : 京都の市井人が書いた新聞コラム、エッセイなどの、自伝、日記など、論文ではないが京都の生活文化が生のまま伝わる記録類を素材に、テーマ設定をしてレポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内容 : 京都の景観について、特に生活文化とのかかわりから、読み解く。民俗誌的現在における都市内部の生活文化について、復原的に理解する。</p> <p>課題 : 京町家の住まい方、通り景観等、視覚的に捉えられる生活文化についてテーマ設定したレポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : 都市と近郊農村との関係性について、様々な位相-信仰、社会生活、生業など-において理解する。</p> <p>課題 : 都市は常に近隣地域との人的・物質的交流の上に成立・維持してきた。民俗文化もまたしかりであり、都鄙の民俗文化の関係性について、それぞれ興味を抱いたテーマでレポートをまとめ提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内容 : 文化施策として生活文化をどのように扱うかに関して考える。文化芸術基本法、文化財保護法、無形文化遺産保護条約、また京都市の文化行政施策などを通して、生活文化の保護や活用について京都を事例に考える。</p> <p>課題 : 民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産等を例に、文化行政施策が民俗文化を扱う制度及びその課題等について考察し、レポートを提出する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)</p> <p>提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : なし</p>

評価方法・基準	： レポート (25%×4)
教材など	： 必須 ①内田忠賢・村上忠喜・鶴飼正樹著『日本の民俗 10 都市の生活』(吉川弘文館, 2009) ②村上忠喜「オク性の希求-京町家の生活文化-」(民俗建築学会『民俗建築』124号, 2003) 参考 ③有末賢・内田忠賢・倉石忠彦・小林忠雄編『都市民俗生活誌第3巻伝統のなかの都市』(明石書店, 2005) ④高橋康夫・中川理編『京・まちづくり史』(昭和堂, 2003) ⑤村上忠喜「研究動向・文化財」(日本民俗学会『日本民俗学』277号, 2014) ※①は本の一部をコピーし配付。②⑤は教員からコピーを配付。③④は大規模図書館の所蔵本などを利用のこと(書店でも入手可能)。一部、動画を使うことがある。
ファイル使用など	： なし
備考	： Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	文化財論特殊講義B
担当者	石川 登志雄
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	最新の研究手法や研究動向にもふれながら、京都の文化財のうち、寺社に伝来する膨大な絵画・彫刻・工芸品や古文書などのいわゆる美術工芸品資料を中心に講義する。担当教員の研究実績をふまえ、京都のいくつかの社寺資料に関して、史料（古文書）・美術工芸品・建造物などを取り上げ、文化財の調査研究・保存修理・活用管理などの現状と課題について検討するとともに、文化財データベースの可能性について言及し、今日危惧される大規模災害等に対する文化財防災の観点からも考察する。
授業内容・方法	以下の通り、文化財調査・保存・活用の現状と課題について学習する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 京都のみならず日本の歴史・文化を再構成する上で、その物質的基礎となる京都における美術工芸品・建造物等の文化財の調査・研究の歴史、調査の方法論について、京都の寺社文化財の調査を事例に考察する。</p> <p>課 題 : 我が国を代表する京都の寺社を取り上げ、そこにおける文化財調査のテーマ、趣旨（目的）、対象の詳細、方法論、体制などに関する調査計画書を作成する。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 文化財を未来に伝えるために、欠くことのできない文化財の保存修復の歴史及び現代における技術的水準と学術的課題について、海外の修復事情にも関説しながら考察する。</p> <p>課 題 : さまざまな活用の前提となる文化財の保護・伝承のうち、もっとも重要な論点である文化財保存修復について、文化財の現状保存と復元という重要な観点をふまえて、その意義をレポートする。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : 文化財には保存とともに社会的活用の問題も重要である。京都において、どのような博物館・美術館があり、どのように展示活用されているのかについて、事例をあげて考察する。</p> <p>課 題 : 特定の都道府県等を事例に、地域における文化財の保護と社会的活用の実態と、地域的な諸課題について考察し、これからの文化財の保護と活用の在り方をレポートする。</p> <p>留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : 現代において総合的に文化財を管理あるいは公開していくうえで、パソコンを活用したデータベースの構築は非常に有効である。寺社や地域の文化財を管理及び公開するうえで、データベース作成の意義、その方法について考察する。</p>

課 題	我が国の博物館・美術館・研究所等の文化財に関するデータベースを検索して利用に熟達するとともに、それらの種類(分類)・特色・評価・改善点などを考察し、レポートする。
留意事項	レポート提出とコメントはメールにて行う。
枚 数	A4・2～4枚(2,000～4,000字程度)
提出期限	1月下旬
スクーリング	なし
評価方法・基準	レポート(25%×4)
教材など	<p>必須</p> <p>①各種文化財調査に関する学術報告書をもとにプリントを作成し、テキストとする</p> <p>②『装潢史』(国宝修理装潢師連盟編, 2011)</p> <p>参考</p> <p>③各博物館等の学術的ホームページ・データベース等</p> <p>※①は教員からコピーを配付。②は教員から一部のコピーを配付。③はインターネットで閲覧可能。具体的な文献と入手先は、プリントを配付し指示する。</p>
IT使用など	なし
備 考	Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール(添付ファイル)で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 伝統芸能論特殊講義B
担当者	: PELLECCCHIA Diego
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本科目は京都における能楽を文化情報学的観点から世界に発信する事を目的とする。室町時代、京都で大成した能楽は、多くの演目において、京都の名所（例：清水寺、賀茂神社、嵐山など）を背景に、歴史と伝説を絡めながら京都の「物語」を描いている。また、舞台に使用されている面や装束の職人の多くは京都を拠点としている。このような関係性から、能楽を媒体とし、京都文化の様々な側面を紹介する方法を考察する。近年、情報メディア技術の進歩で日本の文化財・無形文化財の情報がより簡単に手に入るようになった結果、能楽の情報もこの技術を使用し、世界に発信できる機会が増えた。本授業では現在のデータベースやWEBサイトを調査しつつ、京都文化としての能楽の国内外普及と研究のために新しいWEBリソースを作成していく。
授業内容・方法	: 以下の通り、能楽の歴史と文献についての基礎を学習する。
授業計画	: 第1回 内容 : 能楽と情報メディア学を研究する。研究分野となる情報メディア学（デジタル・ヒューマニティーズ）を紹介する。文化財と無形文化財のデータベースやWEBリソースの現状を検討する。
	課題 : 受講者は講義と教材を踏まえ、事例として一つのデータベースを取り上げる。記録されたアイテムを一つ選び、アーカイブ方法、メタデータ記録方法を検討する。結果はレポート形式で提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 10月下旬
	第2回 内容 : 第1回の内容を踏まえ、伝統芸能（主に能楽）のデータベースやWEBリソースの現状を検討し、その特徴を考察する。収集したものをポータルサイトで集める。
	課題 : 受講者は講義と教材を踏まえ、事例として能楽一曲を取り上げる。データベースを利用した分析をレポートにまとめ、提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 11月下旬
	第3回 内容 : 無形文化財とした伝統芸能の特徴を考慮し、能楽をデジタルで発信するための必要なWEB機能を計画する。
	課題 : 受講者は授業で計画したWEB機能についてレポートで解説し、提出すること。
	留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。
	枚数 : A4・2～4枚（2,000～4,000字程度）
	提出期限 : 12月下旬
	第4回 内容 : 第2～3回の内容を踏まえ、作成したコンテンツ及び機能を繋ぎ、能楽を普及と研究するためのWEBリソースを構築する。ソフトウェアとしてMediaWiki、CMS（Wordpress）を使用する。ソフトウェアの使い方などを授業で説明する。

課 題 : 受講者は講義と教材を踏まえ、WEB リソースを作成する。作成の過程をレポートにまとめ、提出すること。

留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。

枚 数 : A4・2～4枚 (2,000～4,000字程度)

提出期限 : 1月下旬

スクーリング : なし

評価方法・基準 : レポート (25%×4)

教材など : 必須

①赤間亮 [ほか] (編) 『文化情報学ガイドブック 情報メディア技術から「人」を探る：デジタル・ヒューマニティーズ』 (勉誠出版, 2014)

②小林真里 (著) 宇高通成 (監修) 『能面の見かた』 (誠文堂新光社, 2017)

③観世喜正 [ほか] (著) 『一步進めて能鑑賞：演目別にみる能装束』 (淡交社, 2014)

④デジタルコンテンツ：立命館大学 ARC アートリサーチ・センター 能楽動画検索・鑑賞システム (一般公開)

参考

⑤国立劇場 文化デジタルライブラリー

⑥Google Arts and Culture

※①～③は書店で購入可能。④～⑥はインターネットで閲覧可能。

IT使用など : なし

備 考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し、メール (添付ファイル) で提出。提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	: 歴史考古学特殊講義B
担当者	: 鈴木 久男
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 院政期(11世紀後半～12世紀)における京都の文化・物流を考古資料から研究するために必要な、基礎知識・研究手法を獲得し、成果をまとめられるようになること。
授業内容・方法	: 院政期の先行研究(史料・建築史・出土遺物)についての基礎を学習する。
授業計画	: 第1回 内 容 : 院政期の造営に関する概要について理解する。(研究の動向、発掘調査で出土した遺構・遺物(瓦・景石)など)。 課 題 : 現存する建造物(遺構)や仏像などから院政期像を具体的に述べる。 留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度) 提出期限 : 10月下旬
	: 第2回 内 容 : 白河・鳥羽地域における調査・研究(先行研究を調べる、資料をさがす、資料を読む、研究をまとめる)。 課 題 : 院政期に活躍した天皇・上皇や女院の浄土観を具体的に考察する。例:白河・鳥羽上皇と安楽寿院境内の御陵との関係。法金剛院三昧堂と待賢門院との関係などを考える。 留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度) 提出期限 : 11月下旬
	: 第3回 内 容 : 都に運び込まれた遺物から当時の物流(庭石・建築石材・瓦・土器など)を調査・研究する(産地国の追求)。 課 題 : 院政期に際立った活躍をした国司とその遺構を具体的に考える。例:播磨守藤原基隆と鳥羽東殿三重塔(成菩提院御陵)、讃岐守藤原成親と鳥羽金剛心院阿弥陀堂など。 留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度) 提出期限 : 12月下旬
	: 第4回 内 容 : 提出された第2回・3回のレポートについて検討・論評する。 課 題 : 教員からの論評を踏まえ、レポートを見直し、さらに院政期がその後の時代に及ぼした影響を考える。 留意事項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚(2,000～4,000字程度) 提出期限 : 1月下旬
	: スクーリング : なし
評価方法・基準	: レポート(25%×4)
教材など	: 必須 担当教員作成の写真・図版をプリントし、テキストとして配付する参考 ①先行研究をふまえて教材を指示する ②(公財)京都市埋蔵文化財研究所のホームページ掲載の調査成果情報 ※①は教員からコピーを配付。②はインターネットで閲覧可能。
IT使用など	: なし

備 考 : Word あるいは pdf 形式のファイルでレポートを作成し, メール (添付ファイル) で提出。
提出するファイル名は「受講生氏名「受講科目名」(第×回課題レポート)」として下さい。

科目名	京都文化特論演習 I
担当者	石川 登志雄
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	おもに京都を対象あるいは比較事例とする文化財の調査・保存・活用・修復・管理及び歴史その他に関する分野を対象とする修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	受講生の興味・関心に即して、①参考資料（文献、web）の収集、研究構想案の作成、②研究動向の検討（先行事例及び研究の整理、研究史・学説史の整理・分析）、問題点・課題の指摘、③主要参考文献（資料・報告書等）の理解と評価、④研究構想案を更新する（研究テーマの絞り込み、主要参考資料の追加など）。
授業計画	<p>第1回 内容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（文化財の対象・研究内容の分野、その他時代・地域等）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストをふくむ「研究構想案」を作成する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・1~2枚（1,000~2,400字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内容 : プリント「研究の進め方」などを踏まえ、受講生の興味・関心があるテーマに即して、研究動向の検討（先行研究及び事例の整理、研究史・学説史の整理・分析）、問題点・課題の指摘を行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2~4枚（2,400~4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内容 : 受講生の興味・関心があるテーマに関する主要参考文献（資料・報告書等）を取り上げ、要約と論評（疑問点・問題点の指摘、調査・分析、評価等）を行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4~5枚（4,000~6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内容 : これまでの取り組みを踏まえ、一定度テーマを絞り込み、あらためて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（文化財の対象・研究内容の分野、その他時代・地域等）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストを作成する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4~5枚（4,000~6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	課題レポート（20%×4）、スクーリング（20%）
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし
備考	必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートはWord または pdf 形式のファイル（A4・

40 字×30 行) で作成し, メール (添付ファイル) で提出する。

科目名	京都文化特論演習 I
担当者	出田 和久
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	平安京あるいは歴史的都市京都の変容など歴史地理学分野と関連の深い修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	受講生の興味・関心に即して、①参考資料の検索・収集、②研究構想案の作成、③研究動向の検討（先行研究の整理、研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出、④主要参考文献（資料）の理解と論評、⑤研究構想案の更新（研究テーマの絞り込み、主要参考資料の追加など）などについて助言・指導を行なう。
授業計画	<p>第1回 内容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（分野・地域・時期・キーワード）、c. テーマ選定の理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）などのリストをふくむ「研究構想案」を作成する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内容 : 受講生が興味・関心を持つテーマに即して隣接領域も含めて幅広く文献検索、文献収集を行ない、研究動向を整理・理解し、問題点および課題の抽出を行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内容 : 受講生が興味・関心を持つテーマに関する主要参考文献（資料）を取り上げ、要約と論評（目的と方法が整合するか、資料が適切か、それらについての疑問点・問題点の指摘、調査・分析および考察の妥当性などについての論評）を行う。また、研究を進めるためにどのような資料が必要であるかについて調べる。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内容 : 上記3回の取り組みを踏まえ、ある程度テーマを絞り込み、改めて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（分野・地域・時期・キーワード）、c. テーマ選定の理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストを作成・更新する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	課題レポート（20%×4）、スクーリング（20%）
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし

備 考 : 必要に応じて, skype などを使用する。レポートは Word または pdf 形式のファイル (A4・40 字×30 行) で作成し, メール (添付ファイル) で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習 I
担当者	： 小林 一彦
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 春学期
授業目標	： 王朝文学など日本古典文学の分野を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	： 受講生の興味・関心に即して、①参考資料（文献、web）の検索・収集、研究構想案の作成、②研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出、③主要参考文献（資料）の理解と論評、④研究構想案を更新する（研究テーマの絞り込み、主要参考資料の追加など）。
授業計画	： 第1回 内 容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストをふくむ「研究構想案」を作成する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度） 提出期限 : 5月上旬
	第2回 内 容 : 受講生の興味・関心があるテーマに即して、研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出を行う。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 6月上旬
	第3回 内 容 : 受講生の興味・関心があるテーマに関する主要参考文献（資料）を取り上げ、要約と論評（疑問点・問題点の指摘、調査・分析、論評）を行う。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度） 提出期限 : 7月上旬
	第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、一定度テーマを絞り込み、あらためて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストを作成する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度） 提出期限 : 8月上旬
	スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。
評価方法・基準	： 課題レポート（20%×4）、スクーリング（20%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートはWord またはpdf形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習 I
担当者	： 下出 祐太郎
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 春学期
授業目標	： ものづくりを中心とした伝統産業を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	： 受講生の興味・関心に即して、①具体的な資料（有形文化財、伝統工芸品、文献、web）の検索・収集、研究構想案の作成、②研究動向の検討（先行研究の整理、調査・分析）、問題点・課題の抽出、③資料の理解と分析、④研究構想案を更新する（研究テーマの絞り込み、参考資料の追加など）。
授業計画	： 第1回 内 容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 資料（有形文化財・伝統工芸品・文献、web など）リストをふくむ「研究構想案」を作成する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度） 提出期限 : 5月上旬
	第2回 内 容 : 受講生の興味・関心があるテーマに即して、研究の進め方、研究動向の検討（先行研究の調査・分析）、問題点・課題の抽出を行う。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 6月上旬
	第3回 内 容 : 受講生の興味・関心があるテーマ（資料）を取り上げ、疑問点・問題点の指摘、調査・分析を行う。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度） 提出期限 : 7月上旬
	第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、一定度テーマを絞り込み、あらためて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 資料（有形文化財、伝統工芸品、文献、web など）リストを作成する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度） 提出期限 : 8月上旬
	スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。
評価方法・基準	： 課題レポート（20%×4）、スクーリング（20%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートはWord または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	京都文化特論演習 I
担当者	吉野 秋二
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	平安京研究など古代京都史を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	受講生の興味・関心に即して、①参考資料（文献、web）の検索・収集、研究構想案の作成、②研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出、③主要参考文献（資料）の理解と論評、④研究構想案を更新する（研究テーマの絞り込み、主要参考資料の追加など）。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストをふくむ「研究構想案」を作成する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : プリント「研究の進め方」などを踏まえ、受講生の興味・関心があるテーマに即して、研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出を行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 受講生の興味・関心があるテーマに関する主要参考文献（資料）を取り上げ、要約と論評（疑問点・問題点の指摘、調査・分析、論評）を行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、一定度テーマを絞り込み、あらためて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストを作成する。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,000～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。必要に応じ現地踏査を実施する場合もある。</p>
評価方法・基準	課題レポート（20%×4）、スクーリング（20%）
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし
備 考	必要に応じて、skype などを使用する。レポートはWord または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習 I
担当者	: 若松 正志
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近世の京都を研究の主対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）をまとめる際に必要な基礎力を養うとともに、研究テーマ・研究方法などを固める。
授業内容・方法	: 受講生の興味・関心に即して、①参考資料（文献、web）の検索・収集、研究構想案の作成、②研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出、③主要参考文献（資料）の理解と論評、④研究構想案を更新する（研究テーマの絞り込み、主要参考資料の追加など）。
授業計画	<p>第1回 内容 : 受講生が、自身の興味・関心をもとに、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストをふくむ「研究構想案」を作成する。</p> <p>・</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・1~2枚 (1,000~2,400字程度)</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内容 : プリント「研究の進め方」などを踏まえ、受講生の興味・関心があるテーマに即して、研究動向の検討（先行研究の整理、学説史・研究史の調査・分析）、問題点・課題の抽出を行う。</p> <p>・</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・2~4枚 (2,400~4,800字程度)</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内容 : 受講生の興味・関心があるテーマに関する主要参考文献（資料）を取り上げ、要約と論評（疑問点・問題点の指摘、調査・分析、論評）を行う。</p> <p>・</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4~5枚 (4,000~6,000字程度)</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内容 : これまでの取り組みを踏まえ、一定度テーマを絞り込み、あらためて、a. 研究テーマ、b. 研究対象（時期・分野・地域・キーワード）、c. このテーマを選んだ理由、d. 分析方法、e. 参考資料（文献、web など）リストを作成する。</p> <p>・</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・4~5枚 (4,000~6,000字程度)</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	: 課題レポート (20%×4)、スクーリング (20%)
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備考	: 必要に応じて、skype などを使用する。レポートは Word または pdf 形式のファイル (A4・40字×30行) で作成し、メール (添付ファイル) で提出する。

科目名	京都文化特論演習Ⅱ
担当者	石川 登志雄
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	京都の文化財を主対象とする修士論文（または特定課題研究報告書）の執筆を志す学生に対して、文化財研究に関するテーマ及び課題の設定、研究史の整理と学的位づけ、方法論や実証性の検討、結論に至るみちすじを検討するとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	受講生の研究テーマに即して、①関連文献・報告書等の要約・論評、分析資料（文献、web）の収集、②・③収集した資料の読解・データの分析とそれらの考察、④研究中間レポート1及び修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 受講生の研究テーマに即して、関連文献・報告書等の要約と論評を行う。また、どのようなデータ・資料が利用できそうか、検索・収集を行うとともに、文化財学上の課題と研究の位置づけを明確化する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度）</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 収集したデータ・資料の調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : さらに収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何がいえ、さらに何が必要か、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめる。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～7枚（6,000～8,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	課題レポート（15%×3）、研究中間レポート1（40%）、スクーリング（15%）
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし
備 考	必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	京都文化特論演習Ⅱ
担当者	出田 和久
配当年次	1年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	秋学期
授業目標	平安京あるいは歴史的都市京都の変容など歴史地理学分野と関連の深い研究を主対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）を作成する際に必要となる、歴史地理資料やデータ・情報の調査・収集、読解・活用、分析力を養うとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	受講生の研究テーマに即して、①関連文献の要約・論評、分析資料の検索・収集、②・③収集した資料・データの読解・分析・考察、④研究中間レポート1をまとめる。⑤修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 受講生の研究テーマに即して、関連文献の要約と論評を行う。また、どのような資料・データが利用できそうか、検索・課題収集を行う。さらに、受講生の研究テーマによっては、絵図など地図的資料の分析を試みる。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・1~2枚 (1,000~2,400字程度)</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 収集した資料・データの読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料からどのようなことが明らかにできそうか検討しまとめる。受講生の研究テーマによっては、絵図や地籍図など地図的資料の分析を試みる。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚 (2,400~4,800字程度)</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : さらに追加収集した資料・データの読解・分析・考察をすすめるとともに、それぞれの資料からどのようなことが明らかにできそうか検討しまとめる。受講生の研究テーマによっては、絵図や地籍図など地図的資料の分析を試みる。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2~4枚 (2,400~4,800字程度)</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめる。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を検討し、まとめる。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5~7枚 (6,000~8,000字程度)</p> <p>提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	課題レポート (15%×3)、研究中間レポート1 (40%)、スクーリング (15%)
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし
備 考	必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル (A4・40字×30行) で作成し、メール (添付ファイル) で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅱ
担当者	: 小林 一彦
配当年次	: 1年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 王朝文学など日本古典文学の分野を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）を作成する際に必要となる、文献資料やデータ・情報の調査・読解・分析力を養うとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	: 受講生の研究テーマに即して、①関連文献の要約・論評、分析資料（文献、web）の検索・収集、②・③収集した資料・データの調査・読解・分析・考察、④研究中間レポート1及び修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	: <p>第1回 内 容 : 受講生の研究テーマに即して、関連文献の要約と論評を行う。また、どのような資料・データが利用できそうか、検索・ 課 題 収集を行う。さらに、古典資料の講読・分析を試みる。 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度） 提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特 課 題 にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : さらに収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行 課 題 う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめ 課 題 る。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を、考えまとめる。 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・5～7枚（6,000～8,000字程度） 提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	: 課題レポート（15%×3）、研究中間レポート1（40%）、スクーリング（15%）
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備 考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Wordまたはpdf形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅱ
担当者	： 下出 祐太郎
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 秋学期
授業目標	： ものづくりを中心とした伝統産業を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）を作成する際に必要となる、資料収集やデータ・情報の調査・分析力を養うとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	： 受講生の研究テーマに即して、①具体的な資料（有形文化財、伝統工芸品、文献、web）の検索、収集、②・③収集した資料の調査・分析・考察、④研究中間レポート1及び修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	： <p>第1回 内 容 : 受講生の研究テーマに即して、資料に関する情報の収集をどのような資料・データが利用できそうか、検索・収集を行う。 ・ 課 題 : さらに、現物については科学的な調査・分析を試みる。 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度） 提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 収集した資料・データの調査・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。 ・ 課 題 : 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : さらに収集した資料・データの調査・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。 ・ 課 題 : 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度） 提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめる。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を、考えまとめる。 ・ 課 題 : 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・5～7枚（6,000～8,000字程度） 提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、研究中間レポート1（40%）、スクーリング（15%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Wordまたはpdf形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅱ
担当者	： 吉野 秋二
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 秋学期
授業目標	： 平安京研究など古代京都史を研究対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）を作成する際に必要となる、歴史資料やデータ・情報の調査・読解・分析力を養うとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	： 受講生の研究テーマに即して、①関連文献の要約・論評、分析資料（文献、web）の検索・収集、②・③収集した資料・データの調査・読解・分析・考察、④研究中間レポート1及び修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	： <p>第1回 内 容 : 受講生の研究テーマに即して、関連文献の要約と論評を行う。また、どのような資料・データが利用できそうか、検索・収集を行う。さらに、近世史料の講読・分析を試みる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・1～2枚（1,000～2,400字程度）</p> <p>提出期限 : 10月下旬</p> <p>第2回 内 容 : 収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : さらに収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限 : 12月下旬</p> <p>第4回 内 容 : これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめる。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を、考えまとめる。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～7枚（6,000～8,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月下旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。必要に応じ現地踏査を実施する場合もある。</p>
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、研究中間レポート1（40%）、スクーリング（15%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅱ
担当者	： 若松 正志
配当年次	： 1年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 秋学期
授業目標	： 近世の京都を研究の主対象とする学生が、修士論文（または特定課題研究報告書）を作成する際に必要となる、歴史資料やデータ・情報の調査・読解・分析力を養うとともに、研究中間レポート1と修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業内容・方法	： 受講生の研究テーマに即して、①関連文献の要約・論評、分析資料（文献、web）の検索・収集、②・③収集した資料・データの調査・読解・分析・考察、④研究中間レポート1及び修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）をまとめる。
授業計画	： <p>第1回 内 容： 受講生の研究テーマに即して、関連文献の要約と論評を行う。また、どのような資料・データが利用できそうか、検索・課題収集を行う。さらに、近世史料の講読・分析を試みる。</p> <p>留意事項： 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・1～2枚（1,000～2,400字程度）</p> <p>提出期限： 10月下旬</p> <p>第2回 内 容： 収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。</p> <p>留意事項： 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限： 11月下旬</p> <p>第3回 内 容： さらに収集した資料・データの調査・読解・分析・考察を行う。特にそれぞれの資料から何が言えそうか、考えまとめる。</p> <p>留意事項： 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・2～4枚（2,400～4,800字程度）</p> <p>提出期限： 12月下旬</p> <p>第4回 内 容： これまでの取り組みを踏まえ、研究中間レポート1をまとめる。また、修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を、考えまとめる。</p> <p>留意事項： 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数： A4・5～7枚（6,000～8,000字程度）</p> <p>提出期限： 1月下旬</p> <p>スクーリング： 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。第4回提出の課題レポートを踏まえ、指導を行う。</p>
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、研究中間レポート1（40%）、スクーリング（15%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Wordまたはpdf形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅲ		
担当者	： 石川 登志雄		
配当年次	： 2年		
週時間数	： 2		
単位数	： 2		
開講期間	： 春学期		
授業目標	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。		
授業内容・方法	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料・データ）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。		
授業計画	第1回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・素材（根拠資料・データ）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。
		課 題	： 記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）
		提出期限	： 5月上旬
	第2回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料・データ）を記したものを更新し、提出する。
		課 題	： さらに、原稿化を進める。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）
		提出期限	： 6月上旬
	第3回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料・データ）を記したものを更新し、提出する。
		課 題	： さらに、原稿化を進める。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）
		提出期限	： 7月上旬
	第4回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
		課 題	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）
		提出期限	： 8月上旬
	スクーリング ： 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。		
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）		
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。		
IT使用など	： なし		
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。		

科目名	京都文化特論演習Ⅲ
担当者	出田 和久
配当年次	2年
週時間数	2
単位数	2
開講期間	春学期
授業目標	修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。
授業内容・方法	修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・資料（特に根拠となる資料）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・資料（特に根拠となる資料については、目的に即したものであるか、期待した解釈が可能かなどについての検討）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・資料（特に根拠となる資料については、目的に即したものであるか、期待した解釈が可能かなどについての検討）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・資料（特に根拠となる資料については、目的に即したものであるか、期待した解釈が可能かなどについての検討）を更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。</p>
評価方法・基準	課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）
教材など	受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	なし
備 考	必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどはWord または pdf 形式のファイル

(A4・40字×30行)で作成し、メール(添付ファイル)で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅲ		
担当者	： 小林 一彦		
配当年次	： 2年		
週時間数	： 2		
単位数	： 2		
開講期間	： 春学期		
授業目標	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。		
授業内容・方法	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。		
授業計画	第1回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。
		課 題	： 提出はメールにて行う。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）
		提出期限	： 5月上旬
	第2回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。
		課 題	： 提出はメールにて行う。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）
		提出期限	： 6月上旬
	第3回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。
		課 題	： 提出はメールにて行う。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）
		提出期限	： 7月上旬
	第4回	内 容	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
		課 題	： 提出はメールにて行う。
		留意事項	： 提出はメールにて行う。
		枚 数	： A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）
		提出期限	： 8月上旬
	スクーリング ： 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。		
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）		
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。		
IT使用など	： なし		
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。		

科目名	： 京都文化特論演習Ⅲ
担当者	： 下出 祐太郎
配当年次	： 2年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 春学期
授業目標	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。
授業内容・方法	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。</p>
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅲ
担当者	： 吉野 秋二
配当年次	： 2年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 春学期
授業目標	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。
授業内容・方法	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。必要に応じ現地踏査を実施する場合もある。</p>
評価方法・基準	： 課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備 考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅲ
担当者	: 若松 正志
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 春学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の作成を進め、その一次原稿を提出する。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成をめざして、全体の構成案（目次案）にそって、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を固め、原稿を作成・提出する。それをもとに、担当者は学生と議論し、助言やコメントを行い、修正を指示する。これをくり返し、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の構成案（目次案）を作成し、各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを提出する。また、その一部を原稿化する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・4～5枚（4,800～6,000字程度）</p> <p>提出期限 : 5月上旬</p> <p>第2回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・5～10枚（6,000～12,000字程度）</p> <p>提出期限 : 6月上旬</p> <p>第3回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。さらに、原稿化を進める。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・10～15枚（12,000～18,000字程度）</p> <p>提出期限 : 7月上旬</p> <p>第4回 内 容 : 修士論文（または特定課題研究報告書）の各章・各節の論旨・素材（根拠資料）を記したものを更新し、提出する。修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿を提出する。</p> <p>課 題 : 提出はメールにて行う。</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～30枚（18,000～36,000字程度）</p> <p>提出期限 : 8月上旬</p> <p>スクーリング : 受講生と相談の上、8月の2日間・6コマで実施。第4回提出の修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿に即して、指導を行う。</p>
評価方法・基準	: 課題レポート（15%×3）、修士論文（または特定課題研究報告書）の一次原稿（40%）、スクーリング（15%）
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備 考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	： 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	： 石川 登志雄
配当年次	： 2年
週時間数	： 2
単位数	： 2
開講期間	： 秋学期
授業目標	： 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	： 第1回 内 容 　： 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。 ・ 課 題 留意事項 　： 提出はメールにて行う。 枚 数 　　： 必要な分量 提出期限 　： 中間報告会の10日前
	： 第2回 内 容 　： 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。 ・ 課 題 留意事項 　： 提出はメールにて行う。 枚 数 　　： A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 　： 11月下旬
	： 第3回 内 容 　： これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。 ・ 課 題 留意事項 　： 提出はメールにて行う。 枚 数 　　： A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 　： 12月中旬
	： 第4回 内 容 　： 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。 ・ 課 題 留意事項 　： 提出はメールにて行う。 枚 数 　　： A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 　： 1月上旬
	： スクーリング ： 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。
評価方法・基準	： 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80％）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20％）によって総合的に判断する。
教材など	： 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	： なし
備考	： 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	: 出田 和久
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	<p>第1回 内 容 : 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : 必要な分量</p> <p>提出期限 : 中間報告会の10日前</p> <p>第2回 内 容 : 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内 容 : これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月中旬</p> <p>第4回 内 容 : 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。</p> <p>課 題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月上旬</p> <p>スクーリング : 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。</p>
評価方法・基準	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80%）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20%）によって総合的に判断する。
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備 考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	: 小林 一彦
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	<p>第1回 内容 : 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : 必要な分量</p> <p>提出期限 : 中間報告会の10日前</p> <p>第2回 内容 : 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月中旬</p> <p>第4回 内容 : 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月上旬</p> <p>スクーリング : 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。</p>
評価方法・基準	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80%）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20%）によって総合的に判断する。
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	: 下出 祐太郎
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	: 第1回 内 容 : 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : 必要な分量 提出期限 : 中間報告会の10日前
	: 第2回 内 容 : 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 : 11月下旬
	: 第3回 内 容 : これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 : 12月中旬
	: 第4回 内 容 : 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。 課 題 留意事項 : 提出はメールにて行う。 枚 数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度） 提出期限 : 1月上旬
	: スクーリング : 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。
評価方法・基準	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80%）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20%）によって総合的に判断する。
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備 考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	: 吉野 秋二
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	<p>第1回 内容 : 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : 必要な分量</p> <p>提出期限 : 中間報告会の10日前</p> <p>第2回 内容 : 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月中旬</p> <p>第4回 内容 : 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月上旬</p> <p>スクーリング : 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。</p>
評価方法・基準	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80%）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20%）によって総合的に判断する。
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。

科目名	: 京都文化特論演習Ⅳ
担当者	: 若松 正志
配当年次	: 2年
週時間数	: 2
単位数	: 2
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 修士論文（または特定課題研究報告書）を完成させる。
授業内容・方法	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の完成に向け、内容の充実を図る。注記・参考資料リスト・要旨などを整える。原稿に関しては、指導教員や中間報告会での指摘を踏まえ、修正を加える。さらに文章表現など技術的側面も含め、完成度の高いものになるよう、指導を受け、原稿を補正する。そして期日までに修士論文（または特定課題研究報告書）を完成・提出し、公聴会・審査会で報告・論評・口頭試問などが行われる。
授業計画	<p>第1回 内容 : 修士論文(または特定課題研究報告書)中間報告会に向けて、レジュメを作成する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : 必要な分量</p> <p>提出期限 : 中間報告会の10日前</p> <p>第2回 内容 : 中間報告会で指摘を受けたことへの対応の報告、修士論文（または特定課題研究報告書）一次原稿の修正とその内容の報告。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 11月下旬</p> <p>第3回 内容 : これまでの指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の二次原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 12月中旬</p> <p>第4回 内容 : 二次原稿への指摘などを踏まえ、加筆・修正を行い、修士論文（または特定課題研究報告書）の完成原稿を提出する。</p> <p>課題</p> <p>留意事項 : 提出はメールにて行う。</p> <p>枚数 : A4・15～40枚（18,000～48,000字程度）</p> <p>提出期限 : 1月上旬</p> <p>スクーリング : 10月下旬から11月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の中間報告会及び1月下旬から2月上旬の修士論文（または特定課題研究報告書）の公聴会・審査会によって代替する。</p>
評価方法・基準	: 修士論文（または特定課題研究報告書）の内容（80%）と、同中間報告会及び公聴会・審査会での状況（20%）によって総合的に判断する。
教材など	: 受講生と相談の上、決定する。
IT使用など	: なし
備考	: 必要に応じて、skypeなどを使用する。レポートなどは、Word または pdf 形式のファイル（A4・40字×30行）で作成し、メール（添付ファイル）で提出する。